

1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	岡山支援学校	指導者名	中谷 幸希
実践場面 (教科等名)	自立活動	単元・題材名	タブレット端末を活用して、 自分でできることをしよう
学習目標・ ねらい	①視覚的な支援や環境整備を行うことで、すべきことが分かり主体的に行動できるようにする。(自立活動の区分：環境の把握(4)) ②依頼が必要な場面で、自分から近くの教師にタブレット端末を活用して依頼する。(自立活動の区分：環境の把握(4)(5)、コミュニケーション(4))		
対象児童生徒の 実態	肢体不自由部門 中学部 3年 ・学習グループ：Ⅲ－1（自立活動を主とした教育課程で学ぶ生徒） ・教師の伝えた言葉の意味を理解することが難しい。 ・自分の気持ちを、表出することが難しい。		

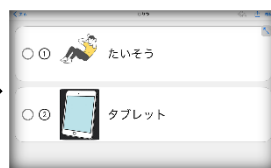
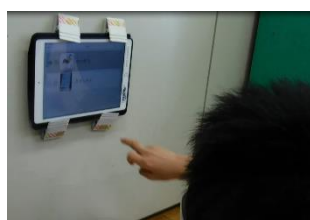
活用の概要

- 担任・自立活動推進係・ICT活用係での打ち合わせ
 実態・目標・今後の成果など共通理解を図ることで、生徒に必要な支援や目指す姿を改めて確認した。
 目指す姿：自分でできることで、不安が軽減し、自信をもつことができる。



○ICT活用

- ①視覚的な支援や環境整備を行うことで、すべきことが分かり主体的に行動できるようにする。
- ・使用アプリ：DropTalk
 - ・機能及び工夫：スケジュールを分かりやすく表示する。生徒の視線に合わせた壁掛け式に設置する。予定が一つ終わったらタップすることで、その予定が消える。スケジュールの内容をわかりやすくすることで主体的にできるものを設定。



自立活動のスケジュール

休憩時間のスケジュール

- ②依頼が必要な場面を意図的に設定する、自分から近くの教師にタブレット端末を活用して依頼する。

- ・使用アプリ：カメラ、絵カードVOCA「しゃべるんです。」
- ・機能及び工夫：カメラ…生徒が写真を撮る。
 絵カードVOCA「しゃべるんです。」…絵カードを使ってコミュニケーションをとる。



カメラ

写真を撮らせてください。

しゃべるんです。

写真を撮る前と後に
アプリを使って、
コミュニケーション
をとる。



ありがとうございます。

成果や活用の
ポイント
・
課題、改善点
等

(成果)①タブレット端末で今すべきことを確認することで、自立活動のマットを準備することやトイレに行くこと等、主体的に行動できるようになってきた。
 ②依頼が必要な場面が分かることでタブレット端末を活用して依頼ができた。
 (課題)①生徒が主体的に活動できるように教師が支援内容を整えてわかりやすい形にして、タブレット端末で確認できる場面を広げ、将来的にはスケジュール管理に活用したい。②自信がもて、自己肯定感が上がるように継続する。